

帯結び誰でも素早く

調布の「着物工房」 鈴木さん

気軽に着物を着込んでもらおうと、調布市菊野台3丁目の「北へん」着物工房を主宰する鈴木富佐江さん(67)が、形や模様出しに手間取る帯を素早く着られるように工夫した。「北へん」速り速速帯と名付け、特許出願中だ。慣れた人でも10分ほどはかかる帯結びだが、この帯なら1分半までできる。体が不自由でも楽に着ることができ、「着物のパリアフリー」を目指すという。



速速帯を仕立てる教室で指導する鈴木富佐江さん(中央)＝調布市菊野台3丁目で

自分の病気を機に考案

鈴木さんは4年前、脳梗塞を患ってから、右手の力がなくなり、帯をうまく結べない、好きな着物を着られず、気持ちまで落ち込んだ。自分が病気に悩む前に、「乳がんの手術の後遺症で、胸が上からない」「丁字マチで手が利かない」などの理由で、着物をあきらめていた女性たちに声をかけてられてもいた。病気を機に、簡単に帯を着ける方法を考案した。

腕を上げにくい高齢者向けには帯を切り、二部式にする方法が普及している。しかし、大事な帯にハサミを入れるのは、忍びない。着物好きの友人たちと試行錯誤した。折り紙の手法がひらめいた。考案したのは折りたたんで帯の形を敷え、数カ所を糸で止める方法だ。袋帯も名古屋帯も、きれいなお太鼓結びになる。糸を切れば、元の帯に戻せる。

今年1月に工房を開いた。6回コースの仕立て教室には30～40代の女性たちが、静岡や千葉からも手持ちの帯を持参して

来る。1本も千円で加工も請け負う。

生徒の一人、昭島市の小林聖子さん(88)は肩の痛みが布くて、帯が結べなくなった。「目の前で帯がお太鼓結びに仕上がるのがうれしい」と喜ぶ。帯結びを手伝って、くれた方が単身赴任してまい、困っていた桜橋区の名倉光子さん(86)も二度作っては使わ

ない。機会が増える」といっ

鈴木さんは「体が不自由な人はもちろん、素早く着たい若い人にも喜ばれる。年配の人にはダンスの肥やしにしている。着物を着て元氣になってほしい。若い人には日本の文化を伝えたい」と話している。

問い合わせは鈴木さん(03・34488・872)。